

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	大五運送(株)馬郡物流センター	階数	地上3F	
建設地	静岡県浜松市中央区馬郡町773-1	構造	S造	
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	平均居住人員	15 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	2,040 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年8月 予定	評価の実施日	2025年10月6日	
敷地面積	6,145 m ²	作成者	丸野純一	
建築面積	2,957 m ²	確認日		
延床面積	4,593 m ²	確認者		



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.2 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境効率 G 環境負荷 L BEE = 1.0 3.0 1.5 0.5 100 50 0 0 50 100 環境負荷 L	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆ 100% #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! 0 46 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5 機能性 耐用性 対応性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5 生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 0.0 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5 水資源 非再生材料の 汚染物質	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果である。 建築物の環境品質については、ゆとりが有り維持管理のしやすい空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。	その他 特になし	
Q1 室内環境 0	Q2 サービス性能 空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするともに将来の変化にも対応できるよう配慮している。 主要な外装材、内装材、配管は更新必要間隔が長い材料を	Q3 室外環境(敷地内) 外部仕上等において、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。
LR1 エネルギー 0	LR2 資源・マテリアル 衛生機器は節水型を採用している。 躯体材料以外におけるリサイクル材の採用に配慮している。 再利用可能なシステム建材を採用している。 有害物質を含まない材料の使用に努めるなどして環境への	LR3 敷地外環境 近くの気象台を用いて風向風速卓越風などの風環境を把握し、計画に配慮した。 屋外照明及び屋内照明はチェックリストの過半を満たすよう配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要															
建物名称	大五運送船島郡物流センター				BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★						
2. 重点項目への取組み度															
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価								
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.0	/5	    				ふつつ								
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.9	/5	    				がんばろう								
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.3	/5	    				ふつつ								
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.8	/5	    				がんばろう								
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満							
3. 重点項目についての環境配慮概要															
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。						内訳対応項目									
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)						得点		3.0							
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④過剰な設備設置をひかえ、躯体、仕上、配管の更新必要間隔が長い材料を採用した。					Q-1	2	2.1	2.2	①	外皮性能				
						Q-1	3	3.1	3.1	②	昼光利用設備				
								3.2	3.2	③	昼光制御				
						Q-2	2	2.2	2.2	④	躯体材料の耐用年数				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外部仕上等は、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。							2.2	④	外壁仕上材の補修必要間隔					
								2.2	④	主要内装仕上材の更新必要間隔					
								2.2	④	空調換気ダクトの更新必要間隔					
								2.2	④	空調・給排水配管の更新必要間隔					
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用)							2.2	④	主要設備機器の更新必要間隔					
						Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出				
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上					
LR-1						1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制					
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪衛生機器は節水型を採用している。 ⑫躯体材料以外におけるリサイクル材の採用に配慮している。 ⑬再利用可能なシステム建材を採用している。 ⑬有害物質を含まない材料の使用に努めるなどして環境への悪影響の低減を図っている。						2	4.1		⑧	自然エネルギー利用					
						2	4.2		⑨	設備システムの高効率化					
						3	4.2		⑩	モニタリング					
						4	4.2		⑩	運用管理体制					
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮近くの気象台を用いて風向風速卓越風などの風環境を把握し、計画に配慮した。					LR-2	1	1.1		⑪	節水					
							1.2	1.2	⑪	雨水利用システム導入の有無					
							1.2	1.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無					
						2	2.1		⑫	材料使用量の削減					
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)							2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用					
							2.3		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					
							2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					
							2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材					
							2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み					
						3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用					
							3.2	3.2	⑬	消火剤					
							3.2		⑬	断熱材					
							3.2		⑬	冷媒					
							3.2		⑬	断熱材					
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮					
						2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善					
					得点					2.9					
					■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)					Q-2	2	2.1	2.1	⑯	耐震性
								2.1	2.1	⑯	免震・制振性能				
								2.1	2.1	⑰	空調・換気設備				
								2.4	2.4	⑰	給排水・衛生設備				
								2.4	2.4	⑰	電気設備				
								2.4	2.4	⑰	機械・配管支持方法				
								2.4	2.4	⑰	通信・情報設備				
								2.4	2.4	⑰	通信・情報設備				
								2.4	2.4	⑰	通信・情報設備				
	“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		3.3							
						■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑲空間のゆとり) ⑲空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるように配慮している。					Q-2	1	1.1	1.1	⑯
						3	3.1	3.1	⑰	階高のゆとり					
							3.1	3.1	⑰	空間の形状・自由さ					
					Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上					
					■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)										
					得点					2.8					
					■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑦まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外部仕上等は、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。 ⑥敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑦緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。					Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
							2			⑥	まちなみ・景観への配慮				
								3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上				
						LR-2	2	2.5		⑦	持続可能な森林から産出された木材				
						LR-3	2	2.2		⑦	温熱環境悪化の改善				